

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	宮前区第1グループ(宮崎・有馬・野川)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども未来局青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

	H26	H27		H26	H27	
利用実績	1 宮崎こども文化センター ①年間延べ利用者数	42,634人	40,094人	②年間延べ利用団体数	1,301団体	1,404団体
	2 宮崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	473人	470人	②年間延べ利用者数	25,067人	33,001人
	3 宮崎台小学校わくわくプラザ ①登録者数	344人	361人	②年間延べ利用者数	15,781人	17,884人
	1 有馬こども文化センター ①年間延べ利用者数	26,771人	27,380人	②年間延べ利用団体数	401団体	375団体
	2 西有馬小学校わくわくプラザ ①登録者数	429人	432人	②年間延べ利用者数	20,289人	21,859人
	3 有馬小学校わくわくプラザ ①登録者数	150人	177人	②年間延べ利用者数	9,288人	11,123人
	4 鷺沼小学校わくわくプラザ ①登録者数	359人	394人	②年間延べ利用者数	17,281人	20,126人
	1 野川こども文化センター ①年間延べ利用者数	48,694人	48,193人	②年間延べ利用団体数	533団体	496団体
	2 西野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	186人	182人	②年間延べ利用者数	8,602人	8,804人
	3 野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	233人	261人	②年間延べ利用者数	13,351人	14,690人
	4 南野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	225人	228人	②年間延べ利用者数	12,018人	11,663人
	収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 182,684,380 2 支出 人件費 156,699,681 事務費 13,377,017 事業費 8,910,756 その他経費 4,698,114 合計 183,685,568 3 差引 -1,001,188				
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	3	6
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由)複数館運営するスケールメリットを活かし、全施設及び複数館の合同行事を実施し、複数館で実施ならではの体験をし、地域や学校を超えて交流を深められている。区合同事業として、ドッジボール大会を開催し、学区を超えた仲間作りや児童相互の交流、またチームワークの大切さや楽しさを体験したり、スポーツ的活動として、「防犯スポーツプロジェクト」を実施し、運動能力と危機管理能力の向上を図る機会を設けている。また、各こども文化センター・わくわくプラザでは、子ども運営委員会や運営協議会を定期的に開催し、意見や要望に基づいて様々な行事を実施することにより、利用者の健康を増進し、情操を豊かにすることができている。新たな事業として、父親との幼児親子のバルーンアート行事を企画し、父親の育児参加を支援したほか、幼児ルームの充実により父親や祖父母の利用も増え、気軽に楽しく子育てができる地域の居場所として定着している。こうした取り組みにより、利用者からは地域の子どもと大人がともに活動し交流できる、また地域の活性化にもつながっているとの意見があり、こども文化センター事業の継続が期待されている。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由)会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6	
<p>(評価の理由) 広報については、こぶんたより、HPなどのほか、中学生だよりの配布や、有馬では幼児向けだよりを配布することで、子ども文化センターの利用者増加を図っている。</p> <p>利用者への対応については、原則として同じ職員が一貫して子どもの対応に従事することにより、対応の継続性の確保と、子どもや保護者との信頼関係を構築し、個別の状況については「事例検討会」を行い、情報を共有している。特別な配慮を要する利用者への対応についても、学校・特別支援級担当教諭、中原養護学校や児童相談所などの関係機関と連携を図っており、登録時に保護者から聞き取った情報や個別の児童状況連絡ノートスタッフ全員で共有したほか、特別な配慮を必要とする子どもの日々の状況を記載した個別ノートを利用し、スタッフ全員で共有している。さらに、食物アレルギーがありエビペンを持参している児童については、スタッフ間で情報を共有し適切な対応ができる体制をとり、子どもが来室した際は、エビペンのある場所を必ず確認している。</p> <p>子ども運営会議や運営協議会を実施し、利用者の意見を把握し、利用者のニーズの把握に努めている。</p> <p>地域住民・ボランティアの協力を得て、幼児グループの支援、中学生・高校生の居場所作りや運営協議会との共催による多様な事業等、各館単位のアクションプランに沿った地域性のある事業の取組をしており、地域ボランティアの積極的な受け入れや運営協議会、市民活動団体、地域ボランティアとの協働の行事を通じて、参加者同士の交流を深め地域一体となった運営を推進している。</p> <p>全ての施設で意見箱を設置し、施設の運営全般にかかわる意見や要望を把握したほか、子ども文化センターでは、行事の参加者を対象に事業実施後、内容や取組等について毎回アンケートを実施している。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
	川崎市公契約条例を遵守しているか				
職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8	
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。個人情報や電子データは鍵のかかる保管庫に保管されている。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 日常的な施設内の点検や安全整備を実施し、必要に応じて迅速に施設修繕を行い事故防止に繋げている。利用者の安全確保のため、マニュアルを整備し、事故等が発生した場合に適切な対応をしているほか、設置したAEDを適正に使用できるよう、グループ合同で消防署の協力を得て「普通救命講習」研修を3回実施し、職員・臨時職員の全員が受講しており、利用者の安全確保に取り組んでいる。「災害時対応マニュアル」を作成し、災害時における対応についての確認を全職員で行ったほか、非常食・保存水の備蓄を増やし、災害の際に対応できるようにしている。また、災害時、停電時に通信網が途絶えた場合を想定し、財団本部、子ども文化センター、各区役所間を電動自転車にて情報伝達を行う訓練を実施したり、子ども達と地域を回り安全マップを作成し、子ども達の防犯意識を高めるなど、地域と一体となった取組を図り、防災対策に積極的に取り組んでいる。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>指定管理者以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの運営管理に携わっていた経験を生かし、53施設の指定管理者として法人本部を中心に、全市規模、区規模の合同行事や事業を展開できている。また、利用者の声を反映することを意識し、また行事ごとに参加者アンケートを行い、参加者の満足度を把握し、改善点や反省を活かした運営をしている。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>引き続き、子ども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフのスキル向上に努め、利用者にとって各施設がより居心地の良い場となることを期待する。</p>
--